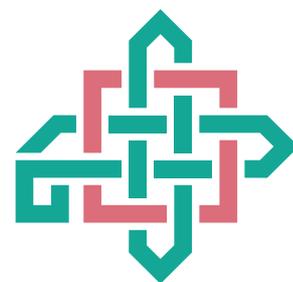


連携の絆を深め、輝く明日へ



ニュースレポート  
**中央会**

NEWS REPORT CHUOKAI

No.841

2026

4



網走支部事務所が移転しました！



支部長懇談会を開催しました



支部だより(網走支部)

## Contents

- 01 いよいよ来月からニュースレポート中央会電子化が始まります！
- 02 令和8年度 中央会本・支部 通常総会の日程／支部長懇談会を開催しました
- 03 第2回情報発信検討委員会を開催しました／  
北海道中小企業青年中央会 第3回青年部講習会・交流懇親会を開催しました
- 04 東北・北海道ブロック中小企業組合士協議会第3回会長会議が開催されました／  
北海道中小企業組合士会第2回研修会・交流懇談会が開催されました
- 05 札幌地方中小企業団体事務長会 第3回研修会・懇親会を開催しました／  
北海道モーターサイクルショウ 2026 が開催されました
- 06 業界こぼれ話  
北海道新幹線の話 ―延伸工事はなぜ遅れているのか―  
～北海道土質試験協同組合 岩石鉱物試験担当 技術課長 國枝 拓司 氏
- 07 北海道からのお知らせ
- 08 令和7年度冬季(下期)賞与支給状況調査報告
- 10 北海道経済産業局からのお知らせ
- 11 2月の道内景況
- 14 支部だより
- 16 中小企業大学校旭川校からのお知らせ
- 17 中小企業基盤整備機構からのお知らせ

## 網走支部事務所が移転しました！

網走支部の新しい事務所は、網走市の駒場地区にある島田ビルの2階です。

室内の面積は以前の約2倍になり、お客様に快適さを感じていただける空間になるよう事務所環境を整備いたします。

これを機に一層のサービス向上に努めてまいりますので、倍旧のお引き立てをお願い申し上げます。

### ■移転先

〒093-0035

網走市駒場南1丁目1-10号

島田ビル 2階

■電話：0152-44-2361

■FAX：0152-61-2168

(電話・FAX番号の変更はありません)

### ■業務開始日

令和8年3月16日(月)



来月から、ニュースレポート中央会は

# 完全電子化

します

これまで半年間にわたりお知らせしてまいりましたが、本誌は来月号から完全電子化(当会 HP での閲覧)となります。

ご不明な点がございましたら、企画情報部までお気軽にお問い合わせください。

紙の広報誌は今号をもって一区切りとなります。

長年にわたりご愛読いただき、誠にありがとうございました。

## 当会ホームページからの閲覧方法



カーソルを持って行くとメニューが表示されます

※バックナンバーは会員ページよりご覧ください

### 【電子化に伴う変更点】

1. 発行日は毎月 10 日(土・日・祝日は翌営業日)となります。

2. メールではご覧いただくための URL をお知らせします。

(ホームページから直接見ることも可能です)

※まだメールアドレスをお知らせいただいていない方は、お手数ですが同封の別紙からご連絡ください。

令和8年度中央会本部・支部の通常総会の日程が次のとおり決まりましたので、お知らせいたします。

	開催日	開催場所
本 部	6月4日(木)	札幌市／札幌ガーデンパレス
道南支部	5月19日(火)	函館市／ホテル函館ロイヤルシーサイド
胆振支部	5月26日(火)	室蘭市／中嶋神社蓬峽殿
上川支部	5月29日(金)	旭川市／OMO7旭川
宗谷支部	5月26日(火)	稚内市／サフィールホテル稚内
空知支部	5月18日(月)	岩見沢市／岩見沢平安閣
網走支部	5月29日(金)	北見市／ホテル黒部
釧路支部	5月29日(金)	釧路市／アクア・ベールくしろ
後志支部	5月下旬予定	小樽市／ニュー三幸小樽
十勝支部	5月21日(木)	帯広市／ホテル日航ノースランド帯広

## 中央会 TOPICS

# 支部長懇談会を開催しました

2月25日(水)、ホテルポールスター札幌にて支部長懇談会が行われ、会長、副会長及び9支部の支部長または副支部長が出席しました。

冒頭、高橋会長より「道内中小企業・小規模事業者を取り巻く状況は、各地域の人口減少や少子高齢化に伴って、地域社会の活力低下が表面化してきている。加えて、物価高騰の長期化、円安が続いている中、価格転嫁は一定程度進んでいるものの、賃上げは、その原資となる適正な利益の確保に向けた価格転嫁も十分に進んでいないことから、依然として、防衛的賃上げにとどまっており、事業活動は、今もなお厳しい。この懇談会では、各地域や業界の現状について生の声をお聞かせいただきながら、情報を共有していただきたい」と挨拶がありました。

次に事務局から、「道内の景況調査結果の推移について」、「令和7年度労働事情実態調査結果の報告」、「令和7年度中小企業団体全道大会決議に伴う要望実施状況の報告」について説明があり、各支部より、地域の経済環境や中小企業・組合の現状、課題、要望事項等について、報告と意見交換が行われました。

意見交換では、「徐々に価格転嫁が進んでいるが、燃料費や原材料費の価格は年中上昇しており、原価の上昇分を販売価格にタイムリーに転嫁するというのが難しい」との声や「若年層の流出、高齢化、そして後継者不在がほぼ全ての業界で共通して見られる。特に専門技術が必要な業種では、技能の継承が進まず、事業の持続可能性に不安」との声が上がりました。また、「価格転嫁に関する支援や設備投資等に関する補助、行政等の発注業務に関して地元企業を優先して発注してもらいたい」との意見が出るなど、地域の実情を本部、支部間で情報共有を図りました。



## 第2回情報発信検討委員会を開催しました

3月5日(木)、当会小会議室において、令和7年度第2回情報発信検討委員会を、委員7名・事務局5名参加のもと開催しました。

同委員会は、組合関係者及び関係機関の委員で構成し、情報発信のあり方やコンテンツの改廃についての検討等を行う委員会の2回目で、前回(令和7年11月開催)の内容を踏まえ、意見・提案のあった事項の進捗状況等について再度検討が行われました。

事務局からは、前回の委員会で提案のあった、「業界こぼれ話」の多業種の掲載を再開すること

について、今月号に北海道土質試験協同組合からの寄稿を掲載、今後も継続して依頼していくことが報告され、委員からもさらなる提案や意見が述べられました。また、5月号から始まる完全電子化に向けた進捗状況の説明も行われ、今後の電子化等についても活発な意見交換が行われました。

この検討委員会での議論を参考に、5月号からの完全電子化に向けて見やすくわかりやすい情報発信を心がけて参りますので、ぜひご感想やご意見をお寄せください。



## 北海道中小企業青年中央会 第3回青年部講習会を開催しました

2月20日(金)、ホテルノースシティにて、北海道中小企業青年中央会が第3回青年部講習会を開催し、18名が参加しました。

今回の講習会は、従来とは趣向を変えて「事業計画考案・発表」として、グループディスカッション形式で実施しました。業界の異なる3~4人のグループに分かれ、各組合の特色を發揮できる事業についてディスカッションを行い、事業計画を発表することで、組合相互の理解とアピールにつなげることを目的としました。参加者はそれぞれの組合が持つ特色を活かした事業について、ディスカッションを行うことで、お互いの持つ強みなどについての理解を深めました。

講習会終了後には、交流懇親会が行われ、野口竜太副会長の乾杯に始まり、その日のグループディスカッションや日頃の青年部の活動などの多彩な話題で活気に包まれ、最後は西松翔太副会長の中締めで盛況のうちに終了しました。



## 東北・北海道ブロック中小企業組合士協議会 第3回会長会議を開催

2月20日(金)、秋田県秋田市において、東北・北海道ブロック中小企業組合士協議会の令和7年度第3回会長会議を開催し、各県の会長・副会長・事務局を含めた9名が出席しました。

会議では、昨年福島県で開催された研修交流会等の事業活動報告と令和8年度に宮城県で行われる研修交流会の内容(9月開催予定)のほか、組合士の活性化に向けた意見交換などが行われ、活発な議論の中で、今後のさらなる制度活用に向けた多様な視点や考え方が共有されました。

※令和8年度研修交流会の案内は、詳細が決定次第、北海道中小企業組合士会の会員の方へご案内いたします。



## 北海道中小企業組合士会 第2回研修会・交流懇談会を開催

3月10日(火)、札幌ガーデンパレスにおいて、北海道中小企業組合士会の令和7年度第2回研修会・交流懇談会を開催し、全体で18名が参加しました。

研修会は、2部構成で行われ、はじめに北海道中小企業組合士会 笠原 豪仁理事(株式会社商工組合中央金庫 札幌支店次長)より、「組合実態調査 2025年度版について」と題し、商工中金と一般財団法人商工総合研究所との共同による組合実態調査のうち、特に組合の抱える課題に関する調査結果について事例発表が行われました。

第2部では、e-労務事務所 代表取締役会長で、社会保険労務士の田中 猛氏より「中小企業組合のための今日から役立つ労務管理セミナー」をテーマにした講演が行われ、労務管理の基本構造を体系的に整理するとともに、実務上の留意点、現場で発生しやすいトラブル事例とその防止策について説明がありました。

研修会に続いて行われた交流懇談会では、来賓として出席した当会川村事務局次長の乾杯で開宴し、出席者による活発な情報交換が行われ、盛況のうちに終了しました。



講師の田中氏



事例発表する笠原理事



## 札幌地方中小企業団体事務長会 第3回研修会・懇親会を開催

3月4日(水)、札幌ガーデンパレスにおいて、札幌地方中小企業団体事務長会の令和7年度第3回研修会及び懇談会が開催されました。

研修会は、「取引改善のススメ～中小受託取引適正化法(取適法)及び労務費指針の概要について」と題し、公正取引委員会 北海道事務所 取引課長 谷口 道郎氏及び取引適正化調査課長 寺本 一彦氏を講師に迎え、労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針や、「下請法」に代わり、今年1月に施行された「取適法」について解説がありました。

労務費転嫁指針では、発注者・受注者の双方に求められる行動が具体的に整理されており、両者が行動指針に沿った対応をとることの必要性が示され、その内容について詳しい解説が行われました。

また、1月から施行された取適法については、「物価上昇を上回る賃上げ」を実現するため、中小企業をはじめとする事業者が賃上げの原資を確保するには、サプライチェーン全体で適切な価格転嫁を定着させる「構造的な価格転嫁」の実現が重要であるとの背景が示されました。あわせて、取引の適正化と価格転嫁のさらなる推進を目的とした改正の概要が紹介され、参加者は熱心に耳を傾けていました。

その後行われた交流懇親会は、村田京華会長の挨拶で開会し、来賓として出席した当会松浦専務理事の乾杯で開宴しました。参加者は和やかな雰囲気の中で交流を深め、来賓の株式会社商工組合中央金庫札幌支店福岡仁志支店長の中締めにより盛会のうちに終了しました。

## 北海道モーターサイクルショー 2026 開催

3月7日(土)・8日(日)の2日間にわたり、北海道最大級のモーターサイクルイベント、北海道モーターサイクルショー 2026 がアクセスサッポロで開催されました。

同イベントは、道内のバイクユーザー層の拡大や安全運転の啓蒙普及、さらには業界全体の活性化と社会的認知度の向上を目的に、毎年3月に同会場で開催される恒例イベントです。長いオフシーズンを過ごす北海道のライダーにとって、春の訪れとともにバイクシーズンの到来をひと足早く感じられる“年に一度のビッグイベント”として高い人気を集めています。

今年も前回に引き続き、「二輪車のある北海道ライフの提案を通して、二輪文化と市場の発展等を図る」をテーマに開催されました。会場には、国内外のバイクなど約350台が並んだほか、

アクセサリなど関連商品の展示・販売、二輪車用安全装備のデモンストレーション、事故防止に関する最新情報の発信、二輪車に関する各種相談コーナーなど、多彩なコンテンツが用意されました。

モーターサイクルカルチャーの魅力を一度に体験できる構成となった今年のショーは、バイク愛好家をはじめ多くの来場者で賑わい、北海道の新たなバイクシーズンの幕開けを盛り上げるイベントとなりました。

次回開催時には、是非、足を運んでみてはいかがでしょうか。



シリーズ

ちょっと一息

第87回

# 業界こぼれ話



北海道新幹線の話 ～延伸工事はなぜ遅れているのか～

北海道士質試験協同組合 岩石鉱物試験担当 技術課長 國枝拓司 氏

## 組合の紹介

北海道士質試験協同組合は、昭和40年に設立された、地面や岩の性質を調べる協同組合です。もともとは、地質調査で採取された「土」の試験を行う共同試験所としてスタートしました。

現在では、土だけでなく、岩石やコンクリート、X線などさまざまな試験を行っています。これらの試験結果は、道路や橋、ダム、建物など、私たちの暮らしを支える社会インフラづくりに欠かせない基礎資料として活用されています。

## 北海道の地質が工事を難しくしている理由 ～地面の“クセ”と向き合う難しさ～

北海道新幹線の札幌延伸は全国から注目される大規模プロジェクトですが、近年は工事の遅れが話題になることもあります。その背景には、北海道特有の複雑な地質条件があります。

図-1に示すように、沿線にはさまざまな地質が分布しており、地域によって地盤の性質が大きく異なります。北海道には火山活動の影響を受けた地域が多く、火山灰や軽石が厚く積もった地層が広く見られます。これらの地層は、一見すると硬そうに見えても、水を含むと崩れやすくなる特徴があります。

また、かつて海の底だった場所が隆起してできた地域では、柔らかい粘土質の地層が広がり、地下水の影響を受けて掘削中に地盤が不安定になることもあります。

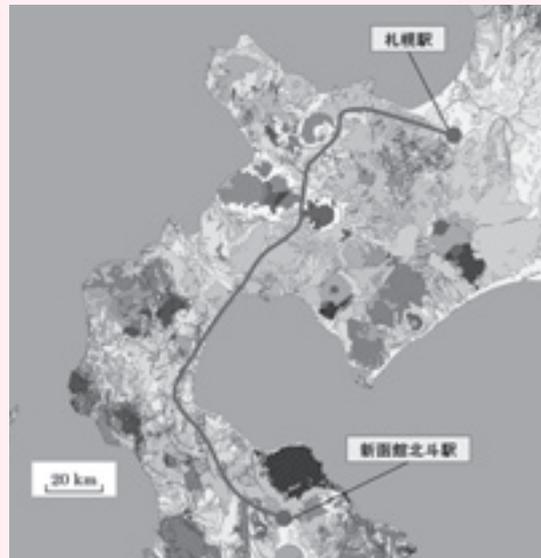


図-1 新幹線札幌延伸地域付近の地質図  
(地質図 navi：産業技術総合研究所を一部追記)

## 工事を支える“地盤の体力測定” ～岩石試験の役割～

新函館北斗～札幌間の延伸区間(約212km)では、全体の約8割がトンネルで、17本ものトンネルが計画されています。山が多いルートのため、全国的に見てもトンネルの割合が非常に高い区間です。

こうしたトンネル工事を安全に進めるために行われるのが「岩石試験」です。現場で採取した岩や土を実験室で調べ、その強さや壊れ方を確認するもので、地盤の“体力測定”ともいえます。

地盤には、強い力に耐えられるものもあれば、水を含むと崩れやすくなるものもあり、岩石試験はこうした性質を事前に把握するために欠かせません。

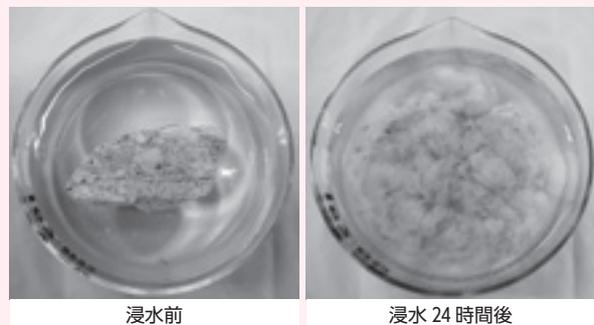


写真-1 スメクタイトを顕著に含む岩石試料の浸水前と24時間後の挙動

代表的な試験には「一軸圧縮試験」があり、試料を押し潰れる強さや潰れ方を調べることで、必要な補強や対策を判断します。

また、膨潤性粘土鉱物(スメクタイト)を含む地層では「浸水崩壊度試験」が行われます。乾いた粘土を水に浸し、膨らみや崩れ方を観察する試験で、その結果は現場での安全対策を考える重要な手がかりとなります(写真-1)。

### 安全を最優先するからこそ、時間がかかる

工事が遅れていると聞くと、どうしても悪い印象を持ってしまいがちですが、実際には「安全を最優先している結果」と考えることもできます。地盤が想定より弱ければ補強を追加し、地下水が多ければ排水設備を整え、危険な地質が見つければ工事方法そのものを見直します。

新幹線は高速で走る乗り物です。地盤にわずかな不安があっても、安全な運行は成り立ちません。目に見えない地下の状態をひとつひとつ確認し、慎重に進めることが、何よりも大切なのです。

### 大地の個性とともに進む、札幌への道

北海道新幹線の札幌延伸は、北海道の未来を支える大きなプロジェクトです。その裏側では、北海道の大地が持つさまざまな“個性”と向き合いながら、地道な作業が続けられています。

地面の状態を丁寧に調べ、その結果をもとに最適な方法を選びながら進められる工事は、将来にわたって安心して利用できる鉄道をつくるための確かな一歩です。札幌開業の日を楽しみにしつつ、その陰で支え続けている見えない努力にも、少し思いを巡らせていただければ幸いです。

今回は北海道土質試験協同組合 岩石鉱物試験担当 技術課長 國枝 拓司 氏よりご寄稿いただきました。ありがとうございました。

## INFORMATION

### 北海道からのお知らせです

## 中小・小規模事業者賃上げ環境整備支援補助金のご案内 (事前告知)

道では、エネルギー価格高止まり等の影響を受けている中小・小規模事業者の生産性向上等を図り、持続的な賃上げに踏み出せる環境を整備するため、経営改善に資する経費を支援します。

補助対象者	道内の中小・小規模事業者等		補助対象経費  (例)機械装置・システム導入費、クラウド使用料、広報費、展示会出展費、開発費、専門家謝金、委託費、外注費、研修費など
区分	通常枠	促進枠	
補助率	1/2	3/4	
上限額	200万円	300万円	
賃上げ要件※1	率を問わない	4%以上	
加点要素	パートナーシップ構築宣言の登録・公表企業※2 など		
スケジュール(予定)	募集期間：4月中旬頃～6月下旬頃 採択決定：8月頃		

※1 2025(令和7)年12月時点と比較し、事業終了時点までに賃上げを実施。

※2 パートナーシップ構築宣言ポータルサイト(<https://www.biz-partnership.jp/>)への登録で加算される。公表までに時間を要しますので、早めにご登録ください。

その他、加点要素、補助対象経費などの制度の詳細については検討中ですので、詳しくは北海道ホームページをご確認ください。



北海道経済部地域経済局 中小企業課経営支援係 011-204-5331

URL : <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/csk/249117.html>



# 冬季(下期)賞与支給・予定調査結果

## 調査結果のポイント

### I 調査の概要

- 調査目的** 道内の中小企業・小規模事業者における冬季(下期)賞与の支給実態を把握し、中小企業・小規模事業者の経営や労働の事情を把握するために実施する。
- 調査対象** 当会会員組合に加入する中小企業・小規模事業者 1,500 事業所
- 調査期間** 令和7年12月～令和8年1月
- 回答事業所数及び内訳(従業員規模、従業員の雇用形態、労働組合の有無)**
  - 回答事業所数 332 事業所(回答率 22.1%)
  - 事業所の内訳 従業員規模別に見ると従業員数 30 人未満の事業所が 70.2%、従業員のうち正社員の比率は 81.0%であった。  
また、労働組合のある事業所は、9.3%であった。

#### [従業員規模別]

業種	業種別比率	1人～4人	5人～9人	10人～29人	30人～99人	100人～300人	事業所合計数
製造業	32.5%	16	22	35	29	6	108
		14.8%	20.4%	32.4%	26.9%	5.6%	100.0%
非製造業	67.5%	37	44	79	55	9	224
		16.5%	19.6%	35.3%	24.6%	4.0%	100.0%
全業種	100.0%	53	66	114	84	15	332
		16.0%	19.9%	34.3%	25.3%	4.5%	100.0%
		70.2%			29.8%		

#### [従業員の雇用形態]

業種	雇用形態	正社員	パート タイマー	派遣	嘱託・ 契約社員	その他	合計
製造業		78.6%	8.7%	2.0%	8.9%	1.8%	100.0%
		82.3%	6.3%	0.4%	9.0%	2.0%	100.0%
全業種		81.0%	7.1%	1.0%	9.0%	1.9%	100.0%

#### [労働組合の有無]

業種	有無	労組あり	労組なし	合計
製造業		10	98	108
		9.3%	90.7%	100.0%
非製造業		21	203	224
		9.4%	90.6%	100.0%
全業種		31	301	332
		9.3%	90.7%	100.0%

※構成比の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも100%とならない場合がある。

### II 調査結果の概要

#### 1 冬季賞与支給の有無

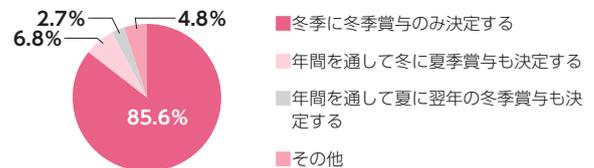
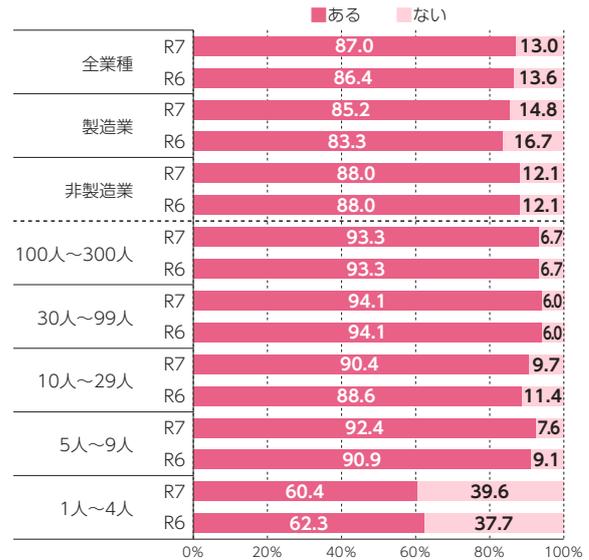
賞与を支給した事業所は、全体の 87.0% (前年度対比 +0.6 ポイント) となった。

業種別では、製造業が 85.2% (前年度対比 +1.9 ポイント)、非製造業が 88.0% (前年度同) となった。

従業員規模別に見ると、「30人～99人」が 94.1% (前年度同) と最も多く、次いで「100人～300人」が 93.3% (前年度同)、「5人～9人」が 92.4% (前年度対比 +1.5 ポイント)、「10人～29人」が 90.4% (前年度対比 +1.8 ポイント)、「1人～4人」が 60.4% (前年度対比 △1.9 ポイント) となった。

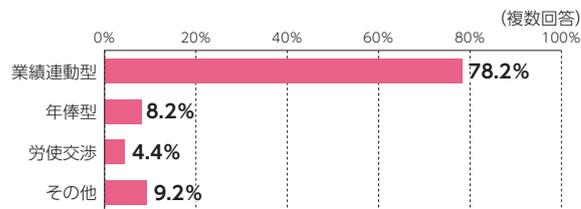
#### 2 支給の決定時期

賞与支給の決定時期は、85.6% の事業所が「冬季に冬季賞与のみ決定する」という方法をとっている。次いで「年間を通して冬に夏季賞与も決定する」が 6.8%、「年間を通して夏に翌年の冬季賞与も決定する」が 2.7%、「その他(春に決定する、年度初めの給与の決定時期)」が 4.8% となった。



### 3 支給額の決定方法

支給額の決定方法は、「業績連動型」が78.2%と最も多く、次いで「年俸型」が8.2%、「労使交渉」が4.4%、「その他(グループの賞与規定、基本給からの定率支給など)」が9.2%となった。



### 4 正社員の平均支給月数と平均支給額

平均支給月数は、全業種で1.8か月(前年度対比+0.1ポイント)となった。

また、平均支給額では、全業種で436,207円(前年度対比+20,392円)となり、業種別では、製造業で363,684円(前年度対比+13,520円)、非製造業で474,729円(前年度対比+21,521円)となった。

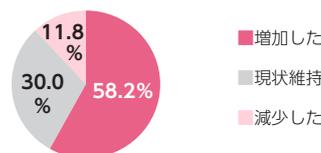
(単位：か月、円)

業種	年度	平均支給月数	平均支給額(正社員1人あたり)
全業種	令和7年度	1.8	436,207
	令和6年度	1.7	415,815
製造業	令和7年度	1.6	363,684
	令和6年度	1.5	350,164
非製造業	令和7年度	1.9	474,729
	令和6年度	1.8	453,208

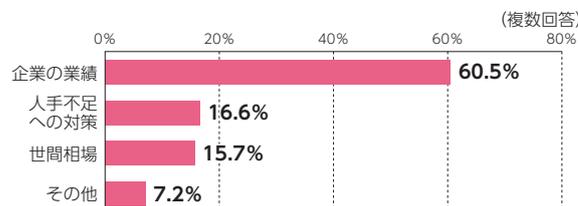
※平均支給額は、今・昨年度において冬季賞与を支給している事業所の正社員1人あたりの加重平均。

### 5 正社員への支給額の変動

正社員の賞与支給額は、「増加した」が最も多く58.2%、次いで「現状維持」が30.0%、「減少した」が11.8%となった。



変動した理由として、「企業の業績」が60.5%、次いで「人手不足への対策」が16.6%、「世間相場」が15.7%、「その他(物価上昇、基本給の引き上げなど)」が7.2%となった。

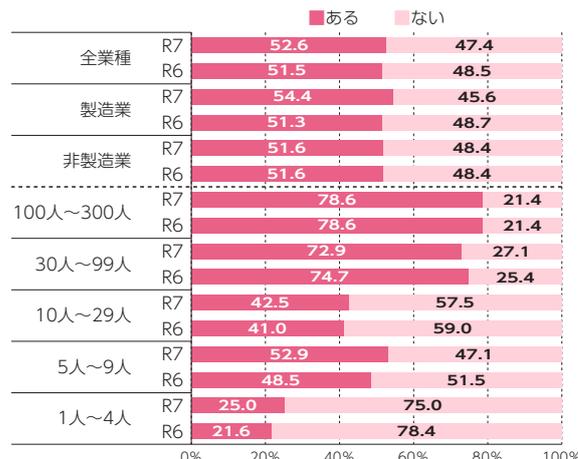


### 6 正社員以外の常用労働者への支給の有無

正社員以外の常用労働者(パートタイマー・嘱託など)へ賞与を支給した事業所は、全体で52.6%(前年度対比+1.1ポイント)となった。

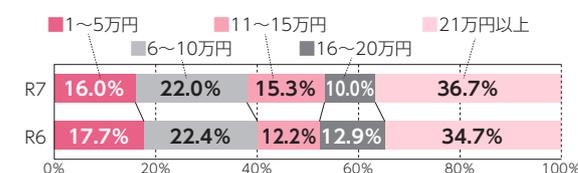
業種別では製造業が54.4%(前年度対比+3.1ポイント)、非製造業が51.6%(前年度同)となった。

また、従業員規模別では、「100~300人」が78.6%(前年度同)と最も多く、「1人~4人」が25.0%(前年度対比+3.4ポイント)と最も少なかった。



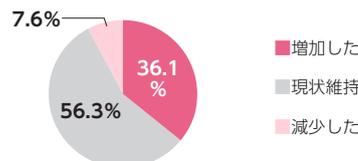
### 7 正社員以外の常用労働者への平均支給額

正社員以外の常用労働者(パートタイマー・嘱託など)への平均支給額は、「21万円以上」が36.7%(前年度対比+2.0ポイント)と最も多く、次いで「6~10万円」が22.0%(前年度対比△0.4ポイント)、「1~5万円」が16.0%(前年度対比△1.7ポイント)、「11~15万円」が15.3%(前年度対比+3.1ポイント)、「16~20万円」が10.0%(前年度対比△2.9ポイント)となった。

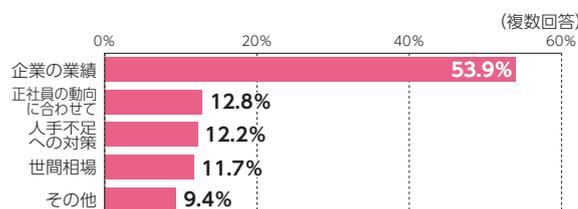


### 8 正社員以外の常用労働者への支給額の変動

正社員以外の常用労働者(パートタイマー・嘱託など)の賞与支給額の変動は、「現状維持」が56.3%と最も多く、次いで「増加した」が36.1%、「減少した」が7.6%となった。



変動理由としては、「企業の業績」が53.9%と最も多く、次いで「正社員の動向に合わせて」が12.8%、「人手不足への対策」が12.2%、「世間相場」が11.7%、「その他(最低賃金の上昇)」が9.4%となった。

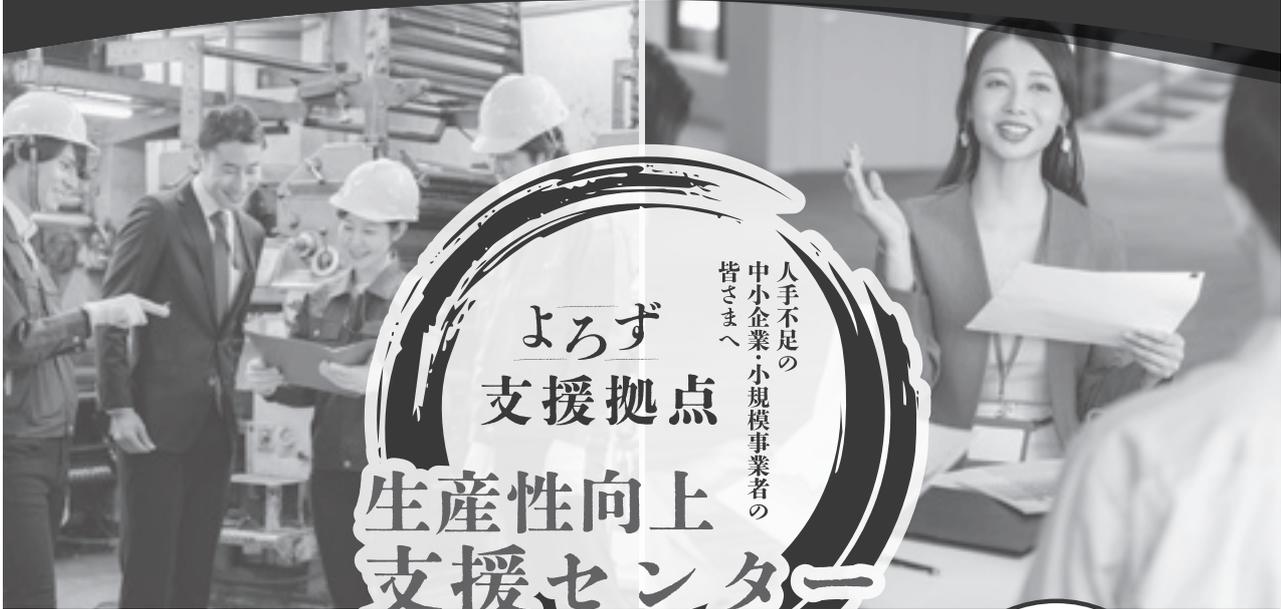


北海道経済産業局からのお知らせです

2026年4月開設予定



中小企業等の生産性向上を徹底的に伴走！  
国がよろず支援拠点内で実施する**無料**の支援です。



よろず  
支援拠点  
生産性向上  
支援センター

人手不足の  
中小企業・小規模事業者の  
皆さまへ

- 「残業が減らず、人が定着しない・・・」
- 「本当は見直したいが、手作業が当たり前になっている・・・」
- 「忙しさに追われ、改善に手を付けられない・・・」

こんな悩みを  
ひとりで抱えて  
いませんか？

生産性向上支援センターは、中小企業等の皆さまに寄り添い、  
「今の現場に合った」次の一歩を一緒に考えます。



ポイント  
1

生産性向上の  
「プロ」が支援

生産性向上に関する知識・経験豊富な「プロ」が「今の現場に合った」次の一歩を一緒に考えます。

ポイント  
2

無料・複数回の  
現場訪問

「相談に行く時間がない」、そんな場合でも、ご安心ください。サポーターが何度でも、無料で、現場へ伺います。

ポイント  
3

補助金活用にも  
メリット

センターの支援を受けることで、省力化投資補助金(一般型)の採択審査において加点が受けられます。(予定)

質問・相談・予約は、  
お近くの「よろず支援拠点 生産性向上支援センター」まで、お気軽にお問い合わせください。

お近くの拠点を



よろず支援拠点一覧 <https://yorozu.smrj.go.jp/base/>



センターで働きたい方はこちら  
サポーター公募情報

<https://yorozu.smrj.go.jp/recruit/>



※「複数回」の支援は、合計10回程度を想定しています。※省力化投資補助金(一般型)の採択審査における加点措置については、2026年夏頃以降の公募から実施予定です。  
※よろず支援拠点一覧の各都道府県センターの情報は2026年春に更新されます。  
※本事業は、令和8年度当初予算案に基づくものであり、本事業の実施は当該予算案の可決・成立が前提となっています。今後の国会審議次第では事業内容等が変更される可能性がありますので、予めご了承ください。(2026年2月時点)

# 2月の道内景況

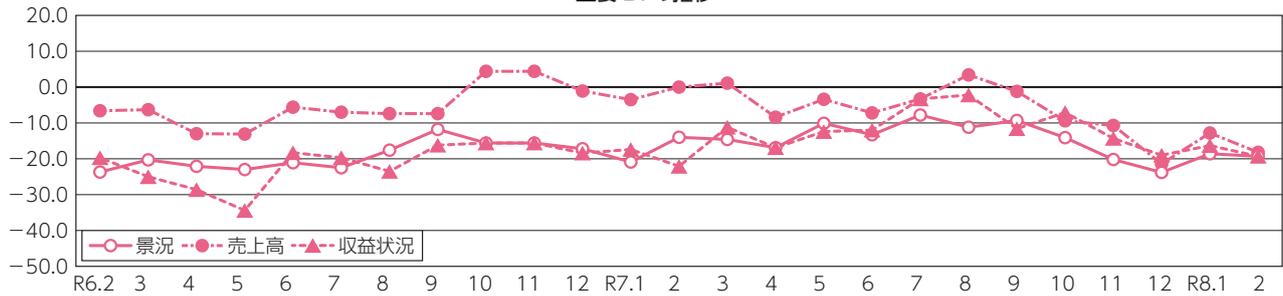
## 情報連絡員レポート

販売価格上昇も収益増加に結びつかず、設備投資等への影響もあり苦慮。また、大雪が冬のイベントに影響。

### 概況

主要DIの推移は、前年同月との比較で、「景況」、「売上高」、「収益状況」のすべてが減少した。また、1月から2月の推移は、「売上高」、「収益状況」については増加し、「景況」は減少した。情報連絡員によると、製造業では、人手不足を補うため積極的に設備投資を行っている業種がある一方、設備投資の余裕がない、設備導入の原資を確保のための価格設定が必要などの声も寄せられた。また、価格改定の状況が厳しい、販売価格が上昇しても各コストの上昇により、収益の好転につながらないといった報告があった。非製造業では、道央圏で先月に引き続き、大雪による仕入や人出、売上などへの影響が見られたと複数の報告があったほか、例年に比べて降雪量が少なかった地域でも、地場の業種への影響を不安視する声も寄せられた。また、物価高騰が背景となり、売上高は上がっているものの収益の増加につながらないとの報告があった。

主要DIの推移



景況天気図 (前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業			天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」)したという回答(構成比)から「減少」(または「悪化」)という回答(構成比)を差し引いた値(DI)をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。
	1月	2月	前月比	1月	2月	前月比	1月	2月	前月比	
業界の景況	△19.3	△21.8	△2.5 ↓	△19.4	△23.1	△3.7 ↓	△19.3	△21.2	△1.9 ↓	<b>(凡例)</b> 30以上 10~29 9~△10 △11~△29 △30以下
売上高	△18.2	△11.5	6.7 ↑	△22.6	△7.7	14.9 ↑	△15.8	△13.5	2.3 ↑	
収益状況	△19.3	△14.1	5.2 ↑	△26.0	△19.0	7.0 ↑	△15.8	△11.5	4.3 ↑	
販売価格	21.6	20.5	△1.1 ↓	16.1	19.2	3.1 ↑	24.6	21.2	△3.4 ↓	
取引条件	△2.3	△1.3	1.0 ↑	3.2	7.7	4.5 ↑	△5.3	△5.8	△0.5 ↓	
資金繰り	0.0	0.0	0.0 →	0.0	0.0	0.0 →	0.0	0.0	0.0 →	
雇用人員	△12.5	△15.4	△2.9 ↓	△9.7	△11.5	△1.8 ↓	△14.0	△17.3	△3.3 ↓	

### 製造業

#### 食料品

- 流水到来時期であり、沿岸漁業は3月11日まで休漁中。
- 水産加工工場は冷凍保存しておいた帆立や魚を加工処理し工場を稼働させている。(網走)

- 味噌・醤油出荷量 (前年対比)

味噌出荷量	道内単月出荷量(令和8年1月)	96.4%
	道内累計出荷量(令和7年1月~12月)	96.8%
	全国累計出荷量(令和7年1月~12月)	101.8%
醤油出荷量	道内単月出荷量(令和8年1月)	99.3%
	道内累計出荷量(令和7年1月~12月)	97.0%
	全国累計出荷量(令和7年1月~12月)	98.4%

- 令和8年1月単月の道内出荷量は、前年比、味噌は悪く、醤油については若干下回った。
- 令和7年度の年間出荷量(1月~12月累計)は、道内の場合、味噌・醤油ともに前年より悪く、全国平均と比較しても悪い結果となった。味噌

の場合、前年対比で全国の年間出荷量が増加している。物価高騰による節約志向から、本州では内食が増えているとの報告も上がっていた。ただし、北海道は出荷量減。未確認だが、お米の価格の上昇で、麺類、パンの消費量が増えているとの話もある。

- 味噌の場合、令和7年産の原料米の大幅な高騰で、令和8年度も味噌の価格改定が予想される。(全道)

- 年末からの受注減の関係で若干売上増。(函館)

- 原材料(特にこんにゃく粉)の上昇により収益状況が悪化している。価格転嫁も厳しい環境が続いている。(札幌)

- 以前獲れていた魚種の変化、南の魚種の漁獲が増えつつある中において、水産加工は転換期ともいえる。地元で獲れる魚だけでは雇用維持が難しい状況であり、設備投資並びに賃上げの余裕がない。

- 食料品だけの消費税廃止は、他の物価高騰であまり意味をなさないような気がする。給付付き税額控除は、所得税の基準を決めると収入を抑える方向に進む。また逆進性が加速するのではと思われる。(函館)

#### 木材・木製品

- 2月の原木の工場への入荷は各地区で不足感がある。道南、道北地方の生産事業の遅延により、出材量の減少、大雪による除雪体制の遅れ、運

材車の手配等が整わないなど工場側の苦悩が続いている。

- 道南方面の生産体制に問題が生じ、来年以降の需給に大いに問題がある。
- 本州のカラマツ原木に不足感が出ており、道内カラマツの4m採材が功を奏し、価格が上がり争奪戦となっている一方で、国有林材のトドマツ一般材については最近落ち着きを取り戻しつつある。また、札幌圏におけるアカエゾ、エゾマツについては苦戦が続いており、不調となっている。
- 木質バイオマス原料については順調に集荷されており、価格も高止まりの傾向である。
- 国産スギの原木価格については一部地域で上昇傾向にあり、これに伴って、道南スギの価格も回復の兆しが見えてきたところ。4m材の採材で販路を開拓したことが結果につながったと評価をしている。
- トドマツ製材市況は、先月に引き続き景気後退等の影響により、新規住宅需要が前月に比べ減少しており、非住宅、土木資材については多少の動きがあるが、価格は弱気配～保合の状況にある。
- カラマツについてはアメリカの日本に対する関税が一旦落ち着き、梱包材の受注が入ってきた工場もあり、ここにきて価格が一気に上がっている。エゾ・トドマツは弱含みで推移している。
- 合板は、東日本についてはカラマツの原木不足、西日本ではスギの原木不足であり、このことで北海道の需要の回復につながってきただが、東日本のスギの価格が暴落し、道内にも安い単価のスギ製材品が多く出回っており、各工場は脅威に感じている。
- 木材業界に限らず、設備更新には今までの投資金額の5割増しが当たり前になってきている。したがって、設備更新ができるような単価設定を考えていかなければならない。
- 新規の木材(製品)需要先の開拓が急がれると考える。概ね全ての林産業界は国内向けの建築、土木、産業用(パレット・梱包)に向けての販売となっているが、特に建築向けでは販売先が寡占化していることで価格決定権を失っており、昨今のインフレ下でも木材だけが価格を上げられない状況となっている。
- 建築需要の低迷長期化による中小工務店の廃業・担い手減少。
- 原木運送業者の人材不足(ベテラン高齢化)による入出荷遅れで、生産活動の遅延・収益低下と輸送コスト高騰。
- 地方企業の人材不足(人員数、技術力)。
- 生産設備老朽化に対する設備維持・更新(機械入手・修繕に要する期間が不透明)。(全道)
- 2月も受注は前年とほぼ変わらない数量となった。3月、来年上半年も受注は変わらず推移していく見通し。しかし原木の入荷は3月前半で一段落するため、4月以降不足になる可能性がある。(十勝)

#### 紙・紙加工品

- 日銀物価指数に続き、2月の日経商品市況がライナ・中芯ともに10円値上がりした。このことにより停滞していた製品価格への転嫁が進展しそうである。(全道)

#### 窯業・土石製品

- 今月の出荷量は昨年同期と比べて、官庁工事において大きく伸びたことにより全体で37%ほど増えた。しかし昨年同期の累計出荷量は依然として低い状況。
- 2月13日に組合工場の若手技術者の実地業行及び中間管理職の実地評価の研修会を開催した。(釧路)

- 販売価格は一定の上昇が見られるものの、公共事業の減少や生産コストの上昇等により売上や収益の好転には至っていない。
- 安価な再生骨材普及による天然砂利の需要減少も顕著となっており、中小零細事業者の経営を圧迫している。(全道)

#### 鉄鋼・金属

- 自動車向けはやや悪い、上下水道向けは普通、建設機械はやや悪い、建設資材向けは普通、加工機械・ロボットはやや悪い。引き続き製造関連市場は全体的に思わしくない。
- 取適法の改正により、売り上げ代金の60日以内の支払いが進んでいる。(全道)

- 国内造船業界は厳しい経営状況が続き、設備投資を十分に行ってこなかったため設備が古く、建造量アップを最優先に設備投資を各社行っている。人手不足を補う上でロボット・クレーン導入が造船業に欠かせない分野となっているが、納期が厳しく遅れている造船所は継続して設備投資を行っている。(室蘭)

#### 一般機器

- 組合員の多くが原材料・エネルギー価格の高騰分の全てを価格転嫁できず、賃上げ対応に苦慮している。
- 昨年6月に破産した組合員の土地建物等の資産は2月27日に売買契約

が成立した。

- 中小企業や中低所得者層を中心とした景気対策・物価高騰対策・手取り増加対策の年度内予算を成立させ、子育て世代の社会保険制度の見直しや給付型減税など、富裕層から中低所得者層への再配分の早期実現が必要。地方創生には鉄道などの交通網整備、特に新幹線(貨物含む)の早期延伸実現と産業の拡大充実が不可欠であると考えられる。(札幌)

- 年度末に向けての動きが出てきている。残念ながら1社廃業となった。(全道)

## 非製造業

### 卸売業

- 札幌市内では2月後半に一気に雪解けが進み、個人消費の動きが活発になったこと、建築関係で内装・空調等の需要が増加したことで全般的に前年比売上増加。
- 売上増と販売価格の上昇で収益も改善した。
- 慢性的な人手不足の状況は変わっていない。(札幌)

- 状況として変わりはないが2月の道内の製紙工場の減産は比較的小幅であった。2月前半の大雪に伴い札幌市内の回収及び出荷に影響があった。(全道)

- 令和8年2月の当組合買付高は仲卸、荷受1,388,756千円(税抜)で、先月の1月実績額1,388,487千円(税抜)より269千円ほど減少した。2月の稼働日数が1月とほぼ同日数であり、買付高がほぼ同額となっている。さっぽろ雪まつりの影響が限定的であったことを裏付ける結果となった。来月は卒業式シーズンになるが、学校関係の学期末も重なり、給食用生鮮品の動きが薄い懸念がある。(道央)

- 4月には大手電機メーカーのLED機器の値上げの予告あり。(全道)

### 小売業

- 前年比較 物販96.6%、金融89.3%。
- 2月は旭川の冬の最大イベントである冬まつりが2月6日~11日に開催されたが、期間中に暴風雪警報が発令されステージイベントの中止など悪天候に見舞われた。延べ来場者数は8.6%減少の75万2千人であった。一方、下旬には4月並みの気温に上昇する等、天候が不安定な月となった。中心市街地の人通りは、日中は少ないものの、夜は観光客等で飲食店は賑わっていた。業種別の売上では、設備が121%と前年を上回ったが、衣料・服飾88%、高額消費財の家電86%、家具73%の減少が響き、全体の売上を押し下げている。(旭川)

- 帯広商工会議所は、2025年の帯広市内の大型店とスーパーの売上状況をまとめた。合計売上高は前年比2.9%増の597億8,600万円で、3年ぶりに前年を上回った。物価の高騰などで食品の売上が増加し、全体を押し上げた。大型店は14.5%減の117億4,900万円で3年連続の減少。スーパーは8.2%増の480億3,700万円に上り、記録が残る2001年以降で過去最高額を更新した。消費者としては、食品の高騰により他にかかる金額を節約していて、やはり賃金の上昇が追い付いていないため、現状厳しい世帯が多いことは間違いない。(帯広)

- 2月は大雪、暴風の日が多く、開店休業のような毎日だった。先月同様、しけで量がなく、生魚の調達が大変だった。月末の特売日も9時過ぎから地元客が来場してくれたが1時間に20~30人ほどで、11時を過ぎると1時間に10人程度の客入りだった。(小樽)

- 2月の小売業は、コスメを扱う組合員店以外は軒並み前年減とのこと。コスメ店はお得意様向けセールを行ったことから前年クリアしたそう。時計、メガネの取扱店はこれからの入進学時期に期待とのこと。酒類卸売も歓迎迎会を迎える3月、4月に期待。自動車関連は地元を離れる人が多く、購入は年々減少、燃料販売はガソリン価格の微妙な上げ下げで固定客以外はセルフの大手チェーン店に集中している様子とのことと、全体を通して売上高は前年マイナスで終えている。
- 販売事業3部門の実績は、旅行業においては海外旅行が微増、国内旅行は相談はあるものの申し込みまで至らない状況、団体案件も減少でトータル前年割れ、携帯電話販売は3月末で終了する3Gサービスに伴う機器の取替が好調に推移したが4月以降の取扱に懸念、保険業は生保、損保ともに前年を割った。(釧路)

- 組合主催事業として「第4回うらかわひなまつり」の3月実施に向けた準備を行った。浦河神社の石段をひな壇に見立て、約700体のひな人形を展示するイベントである。
- ひな人形の設置には、多数の人手が必要となる。昨年度は地元高校生ボランティアによる協力のもと設置を行ったが、今年度は高校卒業式が同日となってしまった。地元金融機関や振興局へボランティア依頼をした

が、組合員の人手不足が大きな課題である。(浦河)

- 今月は春節期間であったが、肌感覚では昨年より入店は少なかったように感じる。思いのほか日中関係の影響があったのかもしれない。
- 函館市教育委員会の生涯学習事業の受入会場として開校している、おでりハ「函館市シニア大学」朝市校も4年目の全日程が終了した。朝市校のみの特典である参加ポイントを設け、獲得ポイントに応じて函館朝市の加盟店で利用できる商品券(500円分)をプレゼントしているが、その商品券の期間中の利用額が約50万円と、前年比1.42倍となり、経済規模では5~6倍くらいの消費効果が見られたように感じる。観光経済規模に比べるとまだまだ低い、それでも近隣の大型スーパーが好調な中で、ここ函館朝市をご利用いただき、地域の方々にご愛顧いただいていることを実感している。(函館)

- 2月はやはり雪、吹雪の影響で、お客様の出足が悪く、売上が悪い日が多かった。雪まつりでの人出が多かったが、売上には全く影響なかった。魚の入荷も不安定で少なく、高値だった。(道央)

- 売上高は前年比91%。天候不順の影響により消費マインドがやや慎重な傾向となったこと、価格メリットのある商材が多かったことが要因としてあげられる。(札幌)

- 2月は和商市場として閑散期になるが、インバウンドの入店客が先月に比べて少しずつ増えてきた。和商の日は、和商マルトク袋を販売した。長蛇の列で即完売し大好評であった。最近の傾向として、市民サークルの催事出店が賑わいを見せている。市場のパン屋さんで、チョコレートを使ったパンを中心にバレンタインコーナーを設置し、好評であった。(釧路)

- AV商品はまだ減少傾向ではあるが、白物家電は増加傾向にあり、前年比としては現状維持である。寒冷地エアコンは相変わらず道東で売れている。(全道)

- 札幌以外の地区では雪解けが進んでいる。春作業が早まる見込み。普段からの準備が必要。(全道)

- 閑散期ではあるが2月売上(加工品、取扱品)は、前期比若干のプラス。
- 冬季閑散期は、通年雇用者の屋内作業探しに特化し、来期業務向けの準備を先々読んで取り組んでいく。
- 機械のメンテナンス、改良等、作業効率を改善する検討を行って、できるものは即実施する。
- 施設管理受託料等、新年度計画を具体化し経費予算を明確化していく。(下川)

#### 商店街

- 2月共通駐車券の利用は前年同月比72.4%、共通駐車券は前年比減。(帯広)

- 2月は、「さっぽろ雪まつり」に代表されるようなイベントもあって、特に都心部においては外国人観光客が増加したこともあり、景況全体としては好転した。しかし、地域の商店街においては、依然として厳しい環境にある。光熱水費の負担増など、マイナス要因に引き続き注視していきたい。引き続き、政府の物価高対策に期待していきたい。(札幌)

#### サービス業

- 全国レベルでは前年同月比、年度累計契約総額も10%を超える落ち込みを示しており、北海道においても同様な傾向を示している。公共事業における1件当たりの業務単価は上昇しているが、発注される業務件数自体が減少しているために業者間の受注状況にばらつきが目立ってきている。また、人件費及び人件費以外の経費も増加しており、経営への影響も出てきている。(全道)

- 度々の大雪に各浴場は除雪作業に追われた様子。最近暖かい日は続いているが、燃料となる重油は高止まり。営業用消耗品についても状況は変わらず営業は楽とは言えない。(全道)

- 経済産業省が推奨する「DX認定制度」を取得する道内企業が増加している。2020年にスタートしたこの制度は独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)が認定審査事務を担っていて、経産省がまとめた「デジタルガバナンスコード」に沿って、すべての事業者(個人、法人)を対象にDX推進体制が整っている企業を国が認定する制度である。取得すると、DXに取り組む信用度の高い企業としてロゴマークの使用、必要資金の低金利優遇、人材開発支援への助成金等の優遇支援策が受けられる。認定取得申請は無料で申請書類の提出後、約2か月間の審査を経て認定となるが、このところ申請企業が大幅に伸びて、認定取得は2026年2月現在で大手企業を含めて全国2,230企業、北海道では42社が認定され、そのうちIT企業は14社が取得している。認定企業からは、企業と

してDX推進に関しての効果を実感した、顧客の企業イメージが向上した、ロゴマークの使用で人材確保へ良い影響があった、新規営業で顧客からの反応が良くなって売上増につながった等の好反響から、認定制度の理解や重要性が認知されて道内中小IT企業の申請が増加している。

(全道)

- 宿泊入込数 前年比100%。道内客の減少が見られたが、道外及び海外客の増加により昨年並みの集客となった。(十勝)

#### 建設業

- 原材料費は上昇傾向が継続し、メーカー・販売店ともに先行きが見通せない状況になっている。各種規制(リスクアセスメント、化学物質、保護具等)の強化対策と熱中症対策が相反することになっているなど、現場での混乱が懸念される。(札幌)

- 官庁工事については先月の状況と特に変わりはない。現在は各官庁において次年度発注工事の準備を進めているところだが、設備設計の不調問題により、設計が間に合わない状況が懸念される。

- また、電気設備については国、道、市それぞれ照明LED化に向けた取り組みを進めているが、数量が膨大なのと、設計業務が間に合わないこともあり、PFIやPPP、ESCOなどの方式が検討されている。この方式だと、大手企業を中心としたグループの参加が見込まれ、地場中小企業の上位での施工参加が難しくなるので、地場企業の参加を義務付けるような発注をしていただくよう業界団体で陳情している。

- 民間工事についても状況は先月と特に変わらない。札幌中心部再開発は未だ初期段階の現場が多く、工事が佳境に入るのは、R9年度、R10年度に集中する様相である。今回、売上高を「増加」としたが、工事が増えた訳ではなく、工事金額が高騰したことによる。

- 道内公立高校の出願倍率(最終)が出た。電気科への出願者が、札幌は1倍前後だが、地方の高校の倍率が悲惨な状況。電気課程卒業者は、賃金水準の高い半導体分野に取られがちなので、本来の電気のインフラを整備維持する技術者の確保が難しくなっている。特に地方が悲惨。設備工事を担う機械職もさらに厳しい状況で、上下水道の経年劣化が懸念される中、これらを担う技術者をどのように確保していけるかは国として重要課題と考える。電気課程、機械課程に進学する子どもたちが増えるよう、公立工業高校への様々な支援策が必要。(全道)

- 当組合は売上の70%以上が除雪業務である。2月に入ってから除雪は落ち着いてきたものの、先月の大雪による道路状況の悪化解消や、降り積もった雪の除排雪で昼夜の作業に追われ、各組合員の除雪担当者にとって極めて多忙な月であった。

- 定例市議会にて除雪委託費の追加補正予算案が可決し、売上高の増加は見込めるが、人手やダンプトラックの不足を補うために想定外の出費となっており、収益状況の好転には至っていない。(北広島)

- 本市における降雪状況は、例年に比べ雪が少なく、2月としては考えられない暖気が続くなど異常気象によるものと思われ、今後もこのような気象傾向が続くと思われる。従って、除排雪を請け負う組合員にとっては厳しい環境に置かれることが心配。

- エネルギー価格は、自動車税の撤廃による影響から価格低下となっているが、世界の情勢によっては原油価格によるエネルギー価格は不透明さを拭えない状況が予想される。また、諸物価の高騰や資材価格の高騰は続いており、会社経営の厳しさは改善されていないため、人材確保にも影響を及ぼしそうである。地域産業の農業においては、水は大切であり、今年の雪不足の影響が心配。

- 本市は、冬の雪を核としたスポーツの振興に力を入れており、この2月は高校インターハイや大学インカレなど大会が目白押しで、市内のホテル等は宿泊客で賑わっている。また、3月初旬にはジュニアオリンピックが開催されることから準備に追われている。(名寄)

#### 運輸業

- 全般的に物量が減っている。特に住宅の新規着工件数の落ち込みにより減少している。

- 物量は減っているが、運賃の値上げにより売上高は前年並みとなっている。

- 本州行の荷物は、月初の雪によりJR貨物が止まったため、トラックによる運送が増えた。

- 札幌は大雪のため、輸送効率が悪く、運行に支障が出た。

- 取適法の施行により資金繰りが良くなった。(全道)

- 農産物について、昨秋の収量減のため出荷減少が続いているが、JRコンテナ扱いでの輸送が大雪の影響でトラック輸送に変更されたため、先月と比較すると稼働率は上がった。

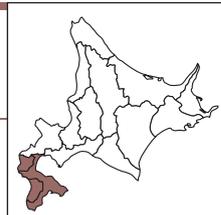
- 一般カーゴは例年並みの動き。(石狩)

# 支部だより



## 道南支部(函館市)

所管／渡島総合振興局・檜山振興局管内  
駐在職員／津川事務所長・齋藤主事



### 道南生コンクリート協同組合主催 「令和7年度コンクリート技術講習会」が 開催されました！

2月24日(火)、  
生コンクリートの  
品質及び技術力の  
向上を目的に、道  
南生コンクリート  
協同組合(橋本吉倫



理事長、組合員17名)が主催する「令和7年度コン  
クリート技術講習会」が開催されました。同組合で  
は、毎年、研修会や講習会を継続的に開催し、組合  
員の知識向上や事業活動の支援に取り組んでいます。

講習会では、コンクリートに関する専門的な技術  
内容を中心に、材料特性や品質管理、施工時におけ  
る留意点など、実務に直結する内容について説明が  
なされました。内容は、専門性の高い技術を軸とし

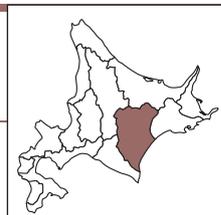
ながらも、各技術の位置づけや  
背景、実務との関係性が整理  
されており、参加者が技術全  
体の流れや考え方を理解しやすい構成となっていま  
した。

同組合の越中谷事務局長は、講習会について、  
「参加者にとっては日頃の業務を改めて見直す契機  
となるとともに、今後の業務における判断や対応を  
検討する上で有意義な内容でした」とおっしゃって  
いました。



## 十勝支部(帯広市)

所管／十勝総合振興局管内  
駐在職員／中條事務所長



### 北の屋台が新体制で第9期開幕 オープニングイベントも開催！

帯広市中心部で「北の屋台」を運営する北の起業  
広場協同組合(坂口琴美理事長、組合員7名)では、  
4月23日(木)から第9期の営業がスタートします。

同組合は、中心市街地のにぎわい創出と飲食店開  
業を目指す起業家の育成を目的に平成12年2月に  
設立され、平成13年7月に屋台を開設。3年ごと  
に店舗を入れ替える仕組みにより新たな挑戦者を受  
け入れています。

第9期は、全20  
店舗のうち9店舗が  
新規出店となり、新  
しい店主による個性  
豊かなメニューや新  
たなサービスが期待  
されるほか、継続出



店の店舗との多彩な店舗構成  
により、新たな魅力の創出が  
期待されます。

なお、営業開始初日の23日(木)17時から第9  
期のオープニングイベントが開催されます。恒例の  
ふるまい酒(なくなり次第終了)も予定されており、  
新たなスタートを祝うイベントとして多くの来場が  
見込まれます。

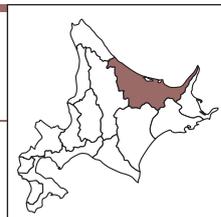
是非、この機会に足を運び、新たに始まる北の屋  
台の雰囲気を感じてみてはいかがでしょうか。





## 網走支部(網走市)

所管/オホーツク総合振興局管内  
駐在職員/尾崎事務所長・笹島主事



### 留辺蘂で「雪灯りの大通り&宝探し」が 開催されました！

2月7日(土)、協同組合留辺蘂商業振興会(生田将啓理事長、組合員38名)の主催で、留辺蘂の冬を彩る恒例行事「雪灯りの大通り&宝探し」が、組合事務所横の駐車場で開催されました。

午前11時から始まったイベントは、地域住民らこども30人、大人20人が参加し、冬のひとときを笑顔で分かち合いました。

当日は、時折吹く風が冷たかったものの、快晴に恵まれた天気となり、参加者たちは用意された熱々のココアや豚汁を頬張り、体を芯から温めてメインイベントの「宝探し」に挑戦。



こどもも大人も夢中になって雪山をかき分けながら、雪の中に隠された景品を探すなど、会場は寒さを吹き飛ばすほどの熱気に包まれました。

また、2月4日(水)から7日(土)の4日間にわたり、幻想的な「大通りキャンドル点灯」も並行して開催され、夜の大通りをやわらかな光が照らしました。

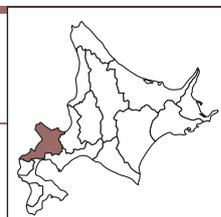
生田理事長は「年々、地域のこどもの数は減少傾向にあるが、この行事を心待ちにしている方々が毎年足を運んでくれている。地域交流の場を守るためにも、来年以降も継続して開催していきたい」とおっしゃっていました。

厳しい寒さの中でも、地域の絆を再確認する温かな冬の1日となりました。



## 後志支部(小樽市)

所管/後志総合振興局管内  
担当/連携支援部 長谷川主査・齊藤主事



### 第38回おたる運河ロードレース大会 開催

北海道を代表する観光地・小樽運河を舞台に「おたる運河ロードレース大会」が、今年も開催されます。本大会は小樽港開港90周年を記念して平成元年に始まった歴史あるレースで、今年で38回目を迎えます。

歴史的建造物の石造倉庫が立ち並ぶ小樽運河周辺や港湾エリアをコースに、爽やかな潮風を感じながら走ることができるのが大きな魅力です。

今大会では、より多くの方に参加していただけるよう、種目や区分の充実が図られています。10kmおよび5km種目では年齢区分を細分化し、より目標を立てやすい構成とするほか、小学校低学年の部も設けられ、こどもたちが挑戦しやすくなりました。

#### ○ファンランで気軽に参加

順位を競わず、自分のペースで楽しめる「ファンラン」は、中学生を除く15歳以上から参加可能

で、コスプレや仮装の出場も歓迎されるなど、より参加しやすい雰囲気づくりが進められています。

#### ○親子で楽しめる大会へ

保護者がファンランにエントリーすることで、小学校低学年のお子さんと一緒に同じコースを走ることができ、家族での思い出づくりにも魅力的な機会となっています。

素晴らしい街並みの中、心地よいランニングを体験してみたいかをご紹介します。

詳細は、公式ホームページをご確認ください。



おたる運河ロードレース大会のサイトはこちら  
<https://www.city.otaru.lg.jp/docs/2025111200024/>

## 中小企業大学校旭川校おすすめ研修のご案内

各市町村・金融機関・商工会議所・商工会等で助成制度があります。  
概要は、旭川校のホームページをご覧ください。(右のQRコードからもご覧頂けます)



### No. 301 次世代を担うトップリーダーを育てる

おすすめ!

#### 経営管理者養成コース



【研修期間】(インターバル研修: 4日×6回)

- ① 2026年 7月 7日(火)～7月10日(金)
- ② 2026年 8月 4日(火)～8月 7日(金)
- ③ 2026年 9月 8日(火)～9月11日(金)
- ④ 2026年10月 6日(火)～10月 9日(金)
- ⑤ 2026年11月10日(火)～11月13日(金)
- ⑥ 2026年12月 1日(火)～12月 4日(金)

【対象者】経営幹部、経営後継者、管理者

【受講料】298,000円(税込)

#### 研修のねらい

企業活動の中核を担う経営管理者として、質の高い経営を行うための総合的・創造的マネジメント能力の向上を図ることを目的として、実践につながる知識やマネジメント手法を体系的に習得します。

#### 【研修の流れ】

- 第1回: 経営戦略と経営計画・論理的思考
- 第2回: 組織と人事管理・リスクマネジメント
- 第3回: マーケティングの理解とプロセス・ゼミ①
- 第4回: 財務会計・管理会計・財務分析・ゼミ②
- 第5回: 事例研究・ビジネスゲーム・ゼミ③④
- 第6回: ゼミ⑤・成果発表会

“総合的マネジメント能力”をマスター

### No. 8 レジリエンス強化研修

札幌開催

逆境に負けない心を育て、  
リーダーシップを磨く

5月13日(水)～14(木)

受講料: 22,000円(税込)

対象レベル: 管理者・新任管理者など



自身のレジリエンスを鍛え、リーダーシップを磨き、組織全体にレジリエンスの力を広げる方法を考え、個人と組織の成長につなげることを目指します。

### No. 9 事例から学ぶ企業法務と危機管理

法的トラブルを未然に防ぎ、  
会社を強くする

5月19日(火)～20日(水)

受講料: 22,000円(税込)

対象レベル: 経営者・経営幹部・その候補者



法的トラブルを未然に防ぐための企業法務の基礎知識や考え方を習得し、多様で複雑なリスクに対応するリスクマネジメントのあり方について学びます。

### No. 10 企業経営に活かす

札幌開催

#### リスクマネジメント講座

自社のリスクを把握し、組織改革の一步を踏み出す

5月25日(月)～26日(火)

受講料: 22,000円(税込)

対象レベル: 経営者・経営幹部



リスクマネジメントの必要性を理解した上で、自社のリスクを抽出・分析し、リスクマネジメントを実行するための体制づくりと実施するプロセスを学びます。

### No. 11 若手リーダー研修(5月開講)

周囲を巻き込み、成果を上げる!  
リーダー養成講座

5月26日(火)～28日(木)

受講料: 32,000円(税込)

対象レベル: 新任管理者・その候補者



若手社員がリーダーとしての自覚を持ち、周囲のメンバーに積極的に働きかけ、チームとして目標達成を推進していくために必要なスキルについて学びます。

講座内容詳細は

中小 旭川

検索

初めての方は

旭川校トリセツ

検索

資料請求や講座内容についてお気軽にお問い合わせください。

電話 0166-65-1200 / FAX 0166-65-2190

独立行政法人 中小企業基盤整備機構 北海道本部

住所 旭川市緑が丘東3条2丁目2-1

中小企業大学校 旭川校



中小企業経営者の  
みなさまへ

国が準備したセーフティネット

# 安心の材料をご提供します。

## 小規模企業共済制度

●制度の特長

**1 経営者のための退職金制度**  
小規模企業の個人事業主（共同経営者を含む）または会社等の役員の方が廃業や退職後の生活資金、事業再建資金をあらかじめ準備しておく共済制度です。

**2 掛金は全額所得控除**  
掛金は、全額が「小規模企業共済等掛金控除」として、課税対象所得から控除できます。

**3 受取時も税制メリット**  
共済金の受取は、一括の場合は「退職所得扱い」、分割の場合は「公的年金等の雑所得扱い」です。

＼他にもこんな特徴があります。／

- ・月々の掛金は1,000円から
- ・契約者貸し付けの利用が可能
- ・共済金の受給権は差押禁止

退職金の準備を  
中小機構が  
お手伝いします



## 経営セーフティ共済

●中小企業倒産防止共済制度の特長

**1 掛金の10倍の範囲内で最高8,000万円まで貸付け**  
「回収困難となった売掛金債権等の額」と「掛金総額の10倍に相当する額（最高8,000万円）」のいずれか少ない額となります。償還期間は共済金の貸付金額に応じて5年～7年（据置期間6か月を含む）で毎月均等償還です。

**2 貸付条件は無担保・無保証人**  
共済金の貸付けは、「無担保・無保証人」「無利子」です。ただし、共済金の貸付けを受けると貸付額の10分の1に相当する額が積み立てた掛金総額から控除されます。

**3 掛金は税法上損金（法人）または必要経費（個人事業）に**  
掛金月額は、5千円～20万円の範囲内（5千円単位）で自由に選べます。

取引先の倒産から  
会社を守る制度です！



共済相談室 TEL. 050-5541-7171 【受付時間】平日 9:00～17:00

オンラインで  
加入申込み  
受付中

加入後の一部手続きもオンラインで可能。  
制度の詳細な内容は2次元コード又はホームページからご確認ください。

Be a Great Small.  
中小機構

小規模企業共済

小規模共済

検索

経営セーフティ共済

経営セーフティ共済

検索



# もっともっと、 できる商工中金へ。



もっと、お客さまのニーズに応えることができる。もっと、新しいことにチャレンジできる。  
それぞれが個性を活かし、未来に向かって、もっともっと「できる商工中金」へ。

企業の未来を支えていく。日本を変化につよくする。  商工中金

札幌支店	〒060-0002 札幌市中央区北二条西3-1-20	TEL:011(241)7231
函館支店	〒040-0001 函館市五稜郭町33-1	TEL:0138(35)5022
帯広支店	〒080-0013 帯広市西三条南9-23	TEL:0155(23)3185
釧路営業所	〒085-0847 釧路市大町1-1-1	TEL:0154(42)0671
旭川支店	〒070-0035 旭川市五条通9-1703-81	TEL:0166(26)2181

## 北海道中小企業団体中央会

〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7 3階  
TEL 011-231-1919 FAX 011-271-1109  
ホームページアドレス <https://www.h-chuokai.or.jp>  
発行日 / 2026年4月1日(毎月1日発行)

\*この機関誌は、誰もが読みやすい  
ユニバーサルデザインフォントと  
環境にやさしい植物油インキを使用  
しています。

UD  
FONT

VEGETABLE  
OIL INK